

「横のつながり作って」

広島県鉄構工業会 青年部会

【広島】広島県鉄構工業会青年部会（部長＝有地康史・成伸工



有地部会長

業社長）は7日、広島市で第28回通常総会を開催、24人が出席した。2018年度の事業と収支決算の報告、19年度の事業計画案と予算案を承認した。

有地部会長は、部長に就任してからの1年を振り返った後、19年度も鋼構造セミナー、広島工業大学の清水斉・工学部教授と進める垂鉛めっき高力ボルト穴の拡張実験を実

施する予定。青年部の講習会をはじめとするさまざまなイベントに積極的に参加することで青年部会員どうしの親睦を深め、困ったときに気軽に相談できるような横のつながりを作ってほしい。今年はいの顔が見られる機会を設けたいと述べ、青年部の活性化に取り組んでいく考えを示した。

来賓として出席した広島県鉄構工業会の加藤善文事務局長は「事務局と青年部の絆を大切にし、次世代を担う若手の育成につなげたい」と話した。

総会後には、災害対策の一環として求められるCADデータなど重要情報の管理・パッ

クアップ体制について、出席者が意見を交換。各社の認識や進捗状況の確認、システム導入済みの会員による事例紹介など、情報共有を行った。

今期から高橋鉄工所の高橋義博専務、三和鉄構建設の中島健介課長、河野鉄工の行友直哉氏の3人が新たに加入し、青年部会は総勢32人となった。